

町会長連合会だより

平成25年8月15日

からさあ

唐沢山…藤原秀郷公の居城跡で、深い歴史を持つ山

第10号

発行 佐野市町会長連合会

編集 会報編集委員会



ふるさと探訪

あしぐろ ししまい
芦蛙獅子舞(並木町【花岡】)

獅子舞のはじまり

芦蛙獅子舞は五穀豊穡、無病息災、厄除祈願のために行われ、約750年の昔から並木町（花岡）に伝わる郷土の民俗芸能の行事で、市の無形民俗文化財に指定されています。

芦蛙とは、かつて例幣使街道の小宿場だった並木地区の旧名称で、文永3年（1263年）に並木町の安楽寺が建立された際、その原材料の余材で獅子頭を作製して、獅子舞を奉納したのがはじまりといわれています。

7月の第3日曜日

親獅子・中獅子・子獅子で構成される獅子頭を3人の舞子が被り、太刀持、御幣持などの伴を連れ、ササラや笛、唄系の風流歌に合わせて、五穀豊穡や無病息災を願って舞を納めたり、太刀を振るって厄を切り払ったりしながら、花岡地区の全世帯を一日かけて巡ります。現在は7月の第3日曜日に毎年行われていて、今年も7月21日に行われました。

新しい獅子頭に

しかし、750年前から一度も交換されていない、旧獅子頭は老朽化が著しかったため、日光東照

宮の修復で知られる「小西美術工藝社」に新しい獅子頭の作製を依頼しました。作製する際には、旧獅子頭に倣った材料や製法で、緻密な再現を試みました。特徴的な黒褐色の羽根は一部再利用して、昨年7月に新しい獅子頭でお披露目を盛大に行いました。

また、毎年旗川小学校の運動会では、この舞をアレンジして、3年生以上の児童が全員で踊るなど、地域の人々には馴染みの深い伝統行事になっています。

地域コミュニティ

落合久雄町会長に話を聞いたところ、花岡町会はこの芦蛙獅子舞があるからまとまっていると言われてきました。古臭く保守的と捉えられがちですが、この獅子舞が地域コミュニティにとっては大きな力だと思っていますので、この力を更に伸ばしていきたいという努力したいと抱負をいただきました。



全市一斉清掃

5月の最終日曜日に、市内全域による一斉清掃を行いました。佐野市全体では、約10トンのごみと1万個の空き缶を回収しました。(別日程で実施した町会もありました。)

市長との懇談会

11月に葛生あくとプラザ、2月に田沼中央公民館において市長との懇談会を実施しました。葛生庁舎の活用や小中学校の統廃合などについて、白熱した討議を行いました。



町会長連合会は平成24年度に このような事業を主に行いました

つばめ 燕市自治会連合会 との意見交換会

10月に新市となって初の視察受入れを行いました。新潟県燕市の方々には、当市の行った町会お宝自慢調査などを参考に行政と町会・市民が一体となって取り組むことの必要性を感じていただきました。

**視察研修**

7月に東日本大震災により被災した石巻市を視察研修しました。被災した地域を見学しながら、石巻大震災まなびのガイドから震災当時の話を聞きました。今後の防災を考えるきっかけにすることが重要であることを再認識しました。

**その他このような活動を行いました**

- 会報「からさわ」の発行(年2回)
- 福祉、教育、文化、行政改革など20を超える団体・会議への参画
- 栃木県自治会連合会事業への参加等

会報の作成

市民の皆さんに、より多くの町会に関する情報をお送りするため会報を年2回発行いたします。

**平成25年度の主な事業****市長との懇談会**

市長と町会長との懇談会を開催します。地域における課題や今後の佐野市について話し合い、町会と行政の連携を図ります。

行政と町会について

行政と町会との関係について、その内容を整理し協働体制がとれるような課題に取り組んでまいります。

その他の事業

- 視察研修
- 全市一斉清掃
- 永年表彰
- 福祉、教育、文化団体・会議などへの参画
- 栃木県自治会連合会事業への参加等

**会長3期目就任にあたって**

佐野市町会長連合会会長

篠崎 芳朋



この度、3期目の町会長連合会会長に就任いたしました田沼北部地区下多田町会長の篠崎芳朋と申します。これまで4年間、皆様のご協力をいただきまして、無事に会長職を全うすることができましたことを心より御礼申し上げます。

岡部市長も3期目に入りました。佐野市元氣アップ計画の中で、自治会活動の充実による地域自治組織の確立に向けた検討に入ると述べております。当連合会も新しい方向に向けた検討に入る時期ではないかと考えております。安心安全で住みよい地域づくりに全町会をあげて取り組んでいきたいと考えておりますので、宜しくご指導ご協力をお願い申し上げます。また、各町会の益々のご発展をご祈念申し上げます。3期目就任の挨拶いたします。

犬伏新町 地域のことは「犬伏新町便り」で発信

毎月1回発行

いぬふしんまち

犬伏新町では、町会活動への関心をもってもらい、コミュニケーションを深めるために、「犬伏新町便り」を発行しています。この広報誌は、町会長の呼びかけで、平成19年から「犬伏新町プラス1」として発行していたものを平成21年5月に「犬伏新町便り」と名称を変更して、毎月1回発行しています。7月1日現在では64号を発行しております。

住民の顔が見える工夫

地元のお祭りや地区の体育祭などのイベント情報、育成会や老人クラブ（新町クラブ）、女性会の活動報告など、町会行事の紹介を通して住民の顔が見える「犬伏新町便り」は

愛読者もたくさんいます。

毎号旬で身近な話題を取り上げ、多数のカラー写真を



分かり易く表現しているため、ついに手に取ってみたいくなる広報となっております。

これからの目標

この広報誌の記事の作成から編集まで一手に行っている副会長の桑原太平さんに話を聞いたところ、記事に関心を持っていただくためには、写真を効果的に活用することが重要で、日頃から技術の習得に励んでいるとのことでした。また、今後は後継者の育成を行いつつ、その後継者にバトンを渡して100号、200号と発行していければとの抱負をいただきました。

全市一斉清掃

―下多田町会レポート―

5月26日（日）市内全域による一斉清掃を実施しました。また、同じ日に秋山川清掃も実施されました。

下多田町会では、午前6時の開始前から秋山川河川敷に多数の



住民が集まりました。

多田大橋から安蘇川橋までの両サイドの河川敷のゴミ拾いや草刈りを行い、約300人の住民が清掃を行いました。

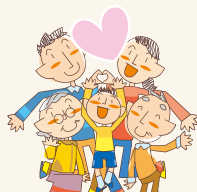


その後、それぞれの地区ごとに分かれて引き続き道路や公園の清掃を行いました。翠下地区では、多田町ポケットパークに集合して、地区会長のあいさつの後、地域内の道路やポケットパーク内のゴミなどを手分けして収集しました。

篠崎芳朋町会長から「住みよい生活環境のため、自分たちの町会は自分達の手できれいにすることが重要です。また、この活動により住民相互のコミュニケーションが深まります。」とお話いただきました。この事業には下多田町会に加入されている多くの世帯の方に参加していただいているとのこと、住民の方々の環境意識の高さと町会事業への理解の高さを伺うことができました。（番記者）

町会は地域において様々な役割を担っています！

町会は住民の皆さんと共に災害時の対応、隣近所との絆づくり、いざという時の相互扶助など地域のために様々な活動を行っている団体です。町会活動に対してより深いご理解をいただき、積極的に参加してください。



- **安全・安心な暮らしを守る活動** 町会では子どもたちの安全を守るための自主防犯パトロールや自主防災の組織をつくっています。また、防犯灯の維持管理や交通安全活動も町会が行っています。
- **親睦交流活動** 円滑な地域社会を進めるうえで、地域の人々が交流することは非常に重要です。町会では、お祭りや子ども会、敬老会への協力を通して子どもから高齢者までの暮らしを後押ししています。
- **環境美化活動** 地域で快適に暮らせるよう、清掃活動を通しての環境美化活動を行っています。ごみ集積所の管理運営も町会が行っています。
- **地域情報活動** 地域の事業案内や市役所・学校・警察などからの情報を回覧板や広報の配布を通して、生活に必要な情報を提供しています。災害時などの緊急時においても有効的な手段であると言われています。

下牧 牧地区に伝わる江戸時代から受け継がれる 「牧歌舞伎」



白浪五人男



絵本太功記



浜松屋

地芝居としての歌舞伎

牧歌舞伎は、江戸時代から現在まで受け継がれている地芝居です。江戸時代後期に江戸の歌舞伎役者・関三郎により伝えられたのが始まりとされており、昭和52年に「栃木県無形民俗文化財」に指定され、現在も牧歌舞伎保存会による公演及び伝承活動が行われています。

プロの芸能者による芝居を旅芝居などと呼ぶのに対して、役者も観客も地元の人々である素人芝居を土地の芝居という意味で地芝居と呼びます。

地芝居は、今と違ってテレビ、映画、コンサートなど娯楽の少ない時代、同じ地域に住む人々のあいだで生まれ、ひとつの芝居を地域の人々で協力して作り上げ、一緒に楽しむことにより地域の結びつきを育んできたという側面もありました。

後継者の育成

最盛期は明治・大正期で、当時の若者の多くが参加しました。昭和初期頃までは、寺の縁日や例祭で定期的に催され、夜通し公演が行われ、近隣の田沼地区や栃木市から山を越えて来たとされています。

しかし、後継者不足の問題から一時中断していた時期もありましたが、昭和56年に地元の青年団が「牧歌舞伎保存会」を結成し見事に復活しました。

保存会の皆さんは下牧町会役員や地元の自営業者、会社員、商工会職員などで、仕事をするかたわら、芝居の稽古に励んでいて、稽古の成果を定期的に披露しています。今年も10月13日に葛生あくとプラザで公演を行う予定です。

また、地元の常盤中学校の生徒への指導といった後継者育成にも力を入れています。毎年7月に1年生から役者を募集し、7月から8月にかけて、週に1、2回のペースで夜の体育館で生徒と仕事帰りの保存会メンバーが集まり、汗をかきながら、稽古に励んでいます。

高橋功牧歌舞伎保存会会長から「牧歌舞伎が江戸時代から連綿と受け継がれて来たのは、役者になった人達の芸熱心と、歌舞伎的風土を育んだ牧の里、牧に住む人達のエネルギーだと考えています。このような地域の連帯感や豊かな人間関係を牧歌舞伎の伝承と共に、継承して行くことが、豊かな地域づくりに繋がります。」とお話を伺いました。

編集後記

「あの日」から2年と半年。絶対に忘れることのできない「あの日」。いまだに重荷を背負って元の生活にもどる願いが早く叶うことを祈りつつ…。今も佐野市で生活されている方々の思いに、少しでも寄り添うことができれば…。今後起こり得る大震災に対し教訓としなければなるまい。

震災の夏、被災者のみなさんに元気になっていただこうと被災地に咲いたひまわり。1年目の夏、避難者の皆さんが植えて、雇用促進住宅に咲いたひまわり。2年目の夏、その種を引き継いで米山公園に咲いたひまわり。みなさんの気持ちを繋いで咲いたひまわり。夏のひまわり。それは、大きな教訓を伝えてくれているかのようです。「あの日」のこと、決して忘れることがないように、子、孫へと語り継がねばなるまい。(小早川記)

発行者 佐野市町会長連合会

〒307-8501

栃木県佐野市亀井町2058-1

佐野市役所南飯庁舎1階

☎0283-20-30005

発行責任者

編集委員長

編集委員

篠崎芳朋

小早川房平

室岡宣幸

飯田明生

大屋吉久

長谷川博

柳澤敬一

佐野市町会長連合会

は全域167町会で組織されています